

女性経営者の草分けとして――

創業45周年

桜ゴルフ社長 佐川八重子の

「しなやかに戦い続ける」経営

[第5回]

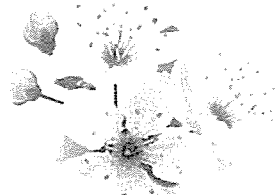


# 「大局観を養い、人を理解し、世界を広げる。」 それができたのは 趣味のおかげです」

「長い経営人生を振り返って、ここまで凌いでやってこられたのは、やはり趣味を持っていたからだと思います」と語る桜ゴルフ社長の佐川八重子氏。財界人との交流を通じて、囲碁や小唄に磨きをかけ、人の輪を広げてきた。経営者の視野を広げるためにも趣味を持つべきという佐川氏。先人の訓えや自身の経験を踏まえ、趣味の大切さを説く。

さがわ・やえこ

1944年千葉県生まれ。63年文化服装学院本科修了、ゴルフ会員権販売会社2社を経て、70年桜ゴルフ創業。東京ニュービジネス協議会創立メンバー、東京産業人クラブ常任理事。



## 若い女性の応援を

―― 佐川社長は、よく人のお世話をされています。女性経営者支援は長いですね。

佐川 30年前より、ニュービジネス協議会（NBC）の女性会をはじめ、最近では日刊工業新聞系の東京産業人クラブに女性部会を立ち上げ、18年になります。

―― 何か以前に心動かされたことがあったのですか。



篠原欣子さんを囲んで、産業人クラブ女性部会幹部の皆さんと

佐川 20代の若いころ、会合

に出ると女性ほとんどおりませんでした。目立っていたのは、デザイナーの森英恵さんと高島屋の初の女性重役石原一子さんでした。お2人ともご主人持ちのエリート。名もない私は1人寂しかった。

私が大人になったら、若い女性たちに手を差し伸べ応援しよう、40年前に心に誓いました。

―― 東京産業人クラブの女性部会は活発ですか。

佐川 現在会員は50社。どちらかというと経営経験の長い会員が多く、「小さくても本物」を標榜しています。若い経営者の支援と合わせて、古い経営者が生き残っていくためのお手伝いもしております。疲れた羽を休める「オアシス」の役割を果たしたい。

―― 研修会にはどんな講師が出ていらっ

しゃいますか。

佐川 年間6～8回の活動ですが、日本総合研究所理事長の寺島実郎さんをはじめ、今年は、文部科学大臣の下村博文先生、元観光庁長官の溝畑宏さん、それから、一橋大学教授の米倉誠一郎先生など、一流の講師陣です。

三ゴの趣味ゴルフ、小唄、囲碁、エリートの必須科目。経営者も同じく

―― 趣味で囲碁や小唄を嗜んでいる佐川さんですが、それらの趣味を始めたきっかけは？

佐川 政治評論家の細川隆元さんから「三ゴの趣味」を勧められました。

会社を始めて間もない頃、細川さんに「君はいつも質問ばかりしているね。酒を飲んでいるときは小唄でも唄って、大人の仲間入りをしなさい」「小唄は、財界人が皆やっているよ。君もすぐ始めたらどうか」と言われたのです。

三ゴの趣味とは、ゴルフ、囲碁、もう一つはご婦人ではあり

ませんよ。小唄です。ゴルフは元々やっておりますので、早速小唄から始めることにしました。

―― 小唄はどうやって覚えましたか？

佐川 まずお師匠さんをご紹介してもらい、月に6回お稽古に通いました。一對一の個人レッスンで口伝えですので、難しくありませんよ。

ただ、その頃カセットレコーダーがまだなく、お稽古の帰りは車の中で唄いながら覚えまして。1年で36曲、2年でトータル60曲をあげました。

―― 小唄とはどのようなものですか。細川さんはお稽古を見て、何かおっしゃいましたか。

佐川 「また独身同士がやっているわい。色気がない」といつもからかわれていました。

小唄は、男女の色恋を唄ったもので、邦楽のいいところを取って凝縮した素晴らしい芸術です。切ない女心を唄う、何とも素敵なものですよ。

—— 清元もやっておられませんでしたか？

**佐川** はい。ある邦楽雑誌で元国鉄総裁の磯崎毅さんと対談したとき、「君はカンの声が出るね。清元をやってみないか。榮三郎師匠を紹介したい」と誘われました。榮三郎先生は本流の方で、お稽古も厳格、清元の魅力にどんどん引き込まれていきました。小唄は3分に対し、清元は40分。大舞台での出演は大変な醍醐味です。

—— 経団連会長だった新日鉄の稲山嘉寛さんともお付き合いがあったとか。

**佐川** 稲山さんは晩年、「日本の伝統芸能を存続させなければならぬ」と運動されており、私は適任とは思いませんが、私にそれを託されたのです。若いころから小唄を唄う珍しい女社長ということで、古い財界人に伝わっていたのかもしれない。

伝統芸能の存続の活動とまではいきませんが、当時のテレビ東京の中川順社長にお願いし、

「芸と人」という邦楽番組を作って頂きました。財界人と邦楽界の方との対談は、話題になりました。

—— 稲山さんとお座敷も一緒にされましたか。

**佐川** 「桜子ちゃんの顔はピンク色だ」と言って、よく招集がかかり、可愛がつて頂きました。苦勞なくしてあのような実力者の優しさに触れるのは、あまりにももったいな過ぎる。僅かなりとも私は苦勞していいかったです。

—— ところで、佐川さんは、今では銀座の風物詩ともなった『銀座くらま会』のメンバーですね。

**佐川** はい。ヤマト運輸の小倉昌男さんのおすすめで入会しました。くらま会は、銀座老舗の旦那衆が伝統文化の存続を目的に、日頃の邦楽の研鑽の成果を年1回新橋演舞場にて披露するというものです。

私は1997年（平成9年）に入会しました。このところの不況で6年お休みをしております。

したが、一昨年復帰。小唄で再デビューをしました。

舞台上立つということ

は、とてつもない陶酔のひとときで、これまでの苦勞が流されるような気がいたします。山あり谷ありの険しい道のり、趣味があったからつなぐことができたのかもしれない。

## 創業20周年の記念に 碁盤をプレゼントされ

—— 囲碁を始めるきっかけは何だったのですか？

**佐川** 囲碁は、創業まもない時間的余裕のないときでしたので、放棄してしまいました。

悔いが残っていたところに創業20周年のお祝いとして、日本

ておりました。そこで、大局観を身に付けなければと始めた囲碁でした。

囲碁は、奥の深い知的戦略ゲームです。また、「生かして生きる」「逃げ道を与えた攻め方」など、人間戦略にもつながるものがあります。

—— 囲碁は難しくありませんか。

**佐川** 皆さん難しいと思っ  
ていらっしゃる方が多いのですが、ゴルフと同じくハンディがありますし、初めての方でも指導者に習うことができます。私も初心者同然で石倉先生に付きましましたが、1年半で初段、3年で2段、5年で3段までいきましましたよ。やる気があれば誰にでもできます。

—— 囲碁の世界でも何か活動をされていますか。

**佐川** 今は、日本棋院の参与として普及活動のお手伝いをしています。

20年前より女流アマチュア囲碁選手権大会を後援しております。それから、つい最近まで、



忙中閑のひととき。囲碁、小唄、日本舞踊で楽しむ

興業銀行の正宗猪早夫さんから碁盤をプレゼントして頂きました。「やりたかったんだらう。僕はもうあまり時間がないが、一緒にやろうじゃないか」と声をかけてくださったのです。

そこには伏線があつて、「東大の囲碁チャンピオンで、3年間だけ興銀にいた石倉昇くんというプロがいる。師匠がいな

日欧青少年囲碁交流事業も長いことやっておりました。

子供の囲碁交流を通じて、国際親善のお役に立てればいいですね。どの世界も同じですが、最近10代の若手の活躍が目立ち、頼もしい。

—— 最後になりますが、会社経営の上で気がかりなことはありますか。

**佐川** 桜ゴルフは今年で45周年を迎えましたが、私も71歳になりました。後継者のことを急いで考えたいと思います。50周年に向けて最後の総仕上げの中で、5年と言わず3年で再構築をしなければなりません。

大きな柱としては、「女性スタッフの拡充」「主要都市新展開」「デジタルメディアの対応」を推進。

まずは女性スタッフの強化として、すでに3年前から新卒を採用しています。フレッシュな新卒は、創業期を見るようであれば、若い力には期待が持てます。どうか温かく見守ってください。

見てやってくれ」と頼まれました。

—— 石倉さんは、どんな先生ですか。

**佐川** 石倉先生は正統派の9段の棋士で、指導碁の第一人者です。



元気な新入社員の研修会から

**佐川** 長いこと中斷していた囲碁ですが、この春無事4段を頂くことができました。3段と違って責任を感じる段位です。

—— 最近佐川さんは4段をお取りになったと聞きましたか。

現在では東大、早稲田、慶應を始め、21の大学で単位が取れるようになりました。

20年前バブル崩壊の中、現場の仕事に追われ、ものの見方が大変狭くなっ